

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先（那覇市医師会 事務局：前泊・上原 / 電話 098-868-7579）

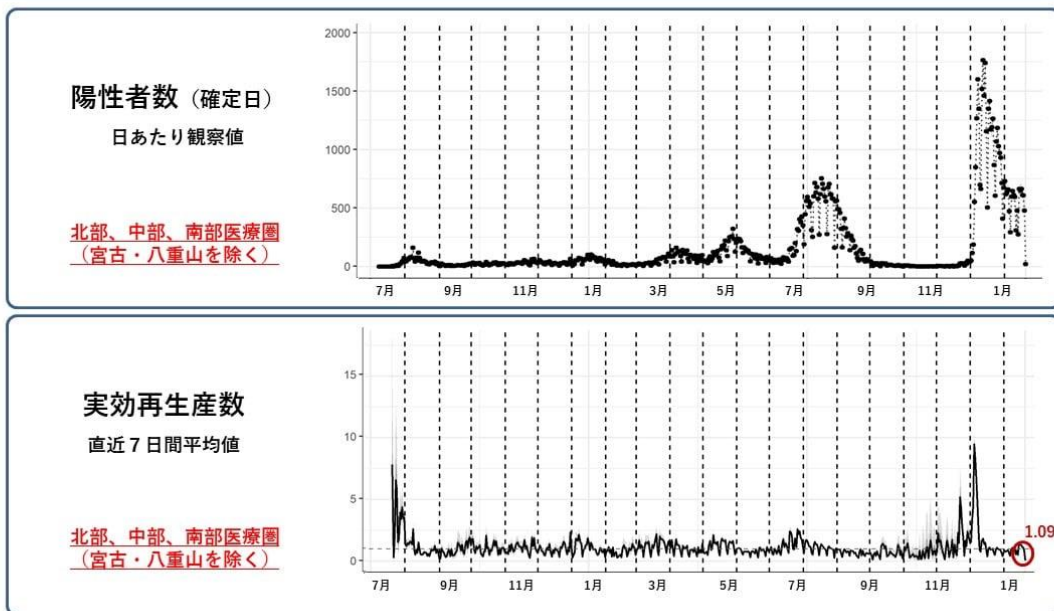
◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。（取扱注意でお願いいたします。） 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【 現 状 】

■ **新規陽性者数・実効再生産数**：沖縄県における先週（2月14日-20日）の新規陽性者数は、4,261人（先々週 3,856人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R) *1は1.09 [最小値 0.51-最大値 1.34]、このうち那覇市は0.96 [0.56-1.26]でした。また、宮古は0.69 [0.23-1.61]、八重山は1.06 [0.52-1.53]でした（図1）。沖縄本島の実行再生産数が1を上回るのは、1月18日の報告以来1か月ぶりです。

(*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。）

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）



■ **年齢階級別推移**：年齢階級別では、10歳未満が750人（18%）と最多であり、10代709人（17%）、40代634人（15%）と続きます（図2）。80代と90歳以上を除くすべての年代において増加していますが、とくに10代において前週比1.44倍と急速な増加を認めています。

図2 性年齢階級別にみる陽性者数 (2月14日～20日)

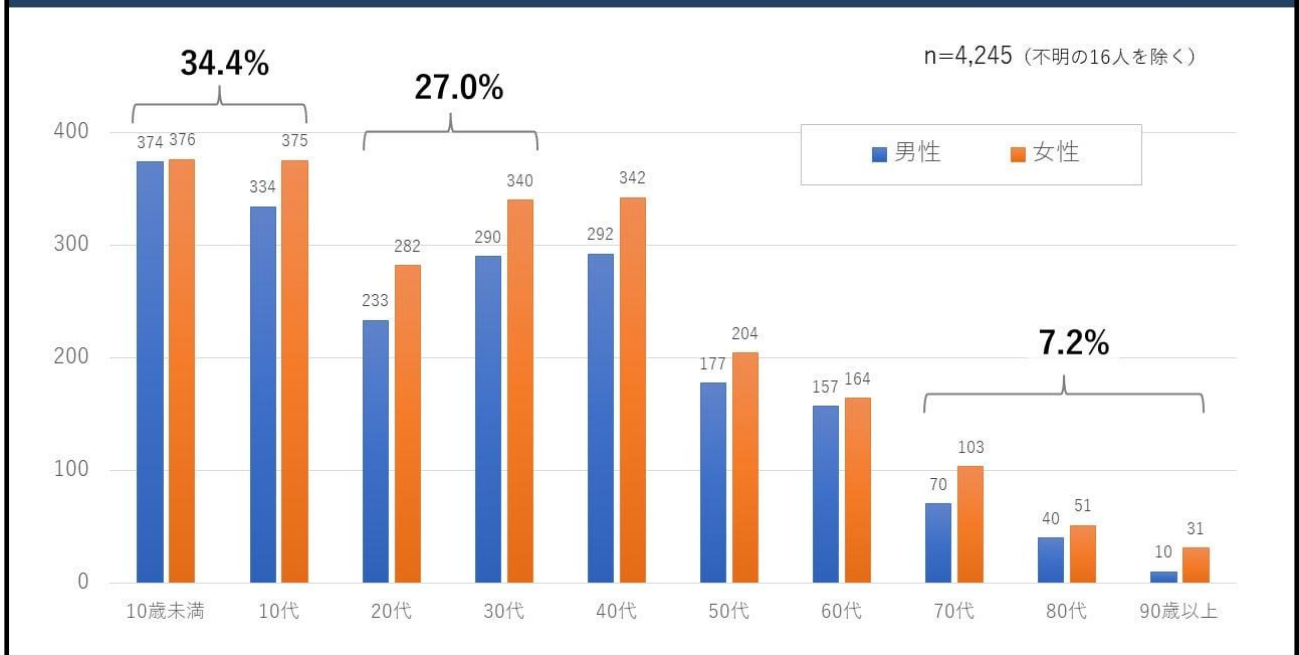
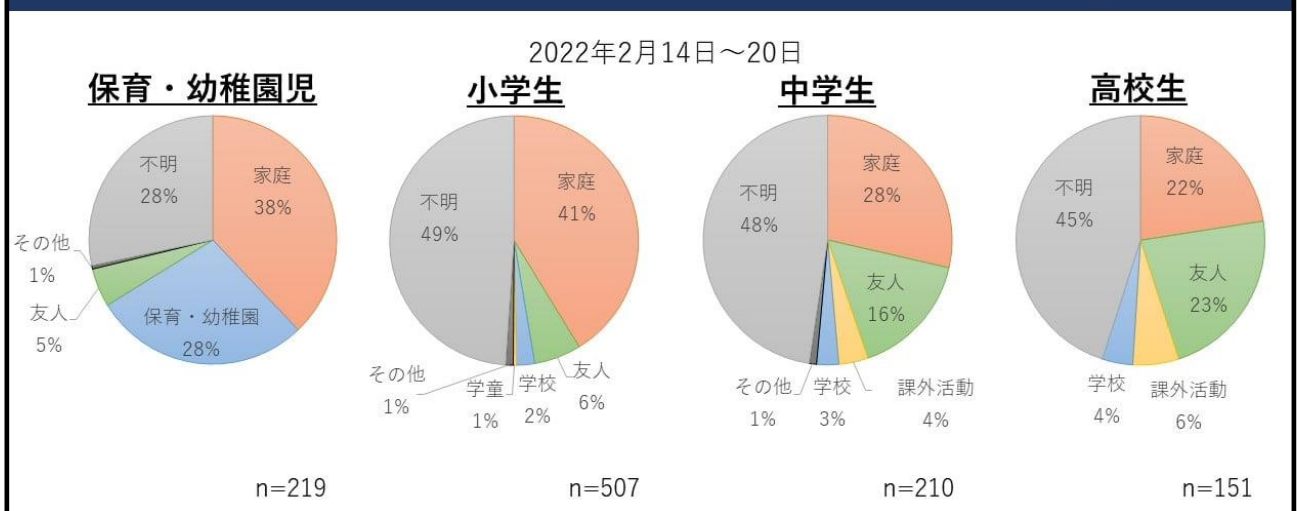


図3 幼年・若年層における推定感染経路 (沖縄県)



■ **幼年・若年層**：学校別では、保育・幼稚園児 219 人 (先々週 186 人)、小学生 507 人 (先々週 452 人)、中学生 210 人 (先々週 117 人)、高校生 151 人 (先々週 99 人) でした。子どもたちで感染が拡大しており、とくに中学生における増加が顕著です。

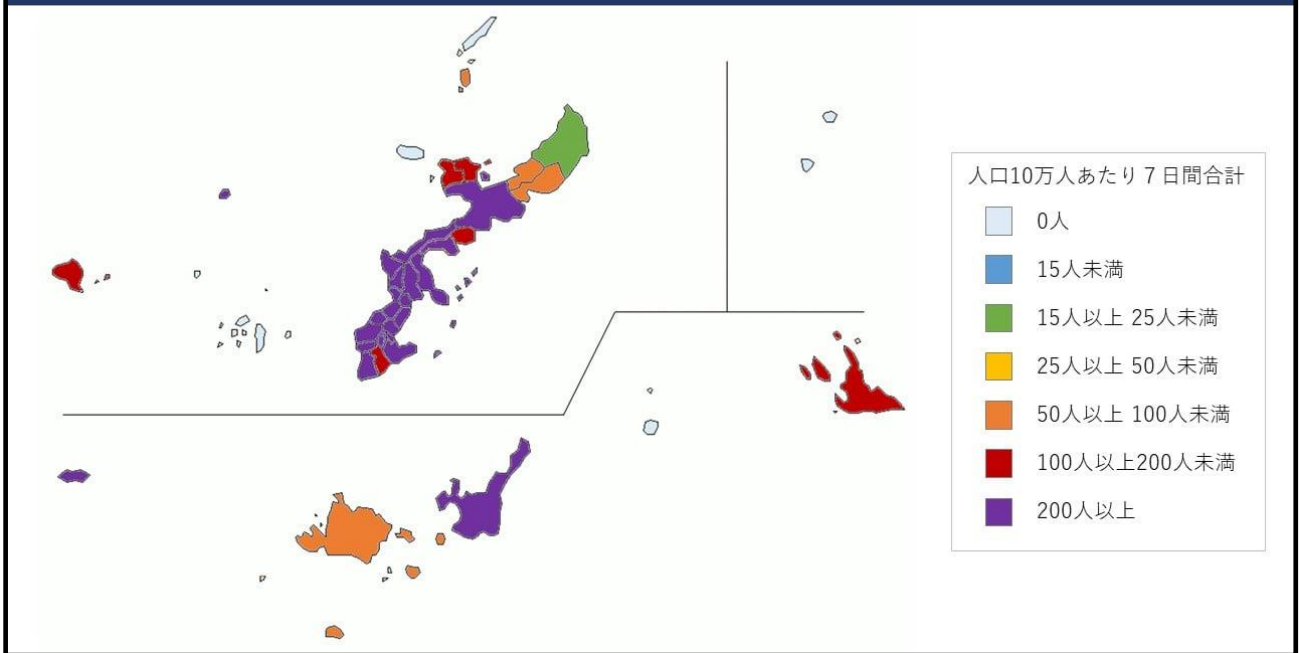
保健所による疫学調査によると、いずれの層も家庭内感染が最多となっていますが、保育・幼稚園児では園内感染が 28% と多く、中学生、高校生では友人からの感染が多く報告されていることが特徴です (図3)。

■ **保健所管区別・市町村別推移**：保健所管轄区域別 (7 日間合計) では、北部 177 人 (先々週 185 人)、中部 1,754 人 (先々週 1,386 人)、那覇市 792 人 (先々週 824 人)、南部 1,250 人 (先々週 1,106 人)、宮古 70 人 (先々週 141 人)、八重山 188 人 (先々週 168 人) でした。

中部、南部、八重山において増加しています。中部は、前週比 1.27 倍と増加速度が増していますが、中学生で 38 人から 113 人と前週比が 2.97 倍となるなど小児における増加が顕著です。一方、北部、那覇は横ばいで推移しています。2 月 7 日に重点措置が先行して解除された宮古は、減少が保たれています。なお、県外からの渡航者は 26 人 (先々週 41 人) でした。

人口 1 万人以上の市町村別 (人口 10 万人あたり 7 日間合計) では、多い順に金武町 483、南風原町 479、うるま市 473 でした (図5)。金武町では、先週 55 人の新規陽性者のうち、保育・幼稚園児 17 人、小学生 10 人と小児における感染が増加しています。

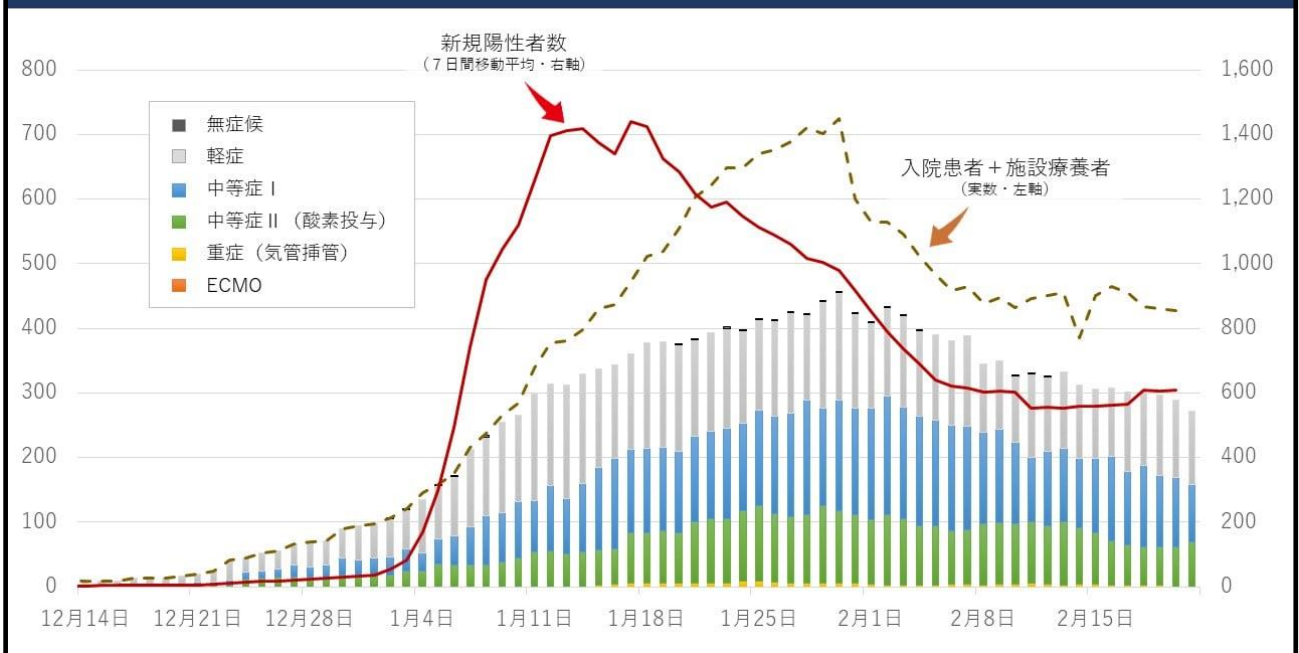
図5 沖縄県・市町村別ヒートマップ（2月14日～20日）



■ **入院患者数推移**：入院患者数は、先週末（2月20日時点）で292人と1週間前より42人減少しています。全体の新規陽性者数は増加傾向ですが、小児を中心とした流行であり、高齢者の感染は減少していることを反映していると考えられます。酸素投与など中等症患者は169人と1週間前より32人減少しており、気管挿管など重症患者は3人と1週間前より2人減少しています（図6）。

この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が、先週末（2月20日時点）で19施設に136人おられます。このうち高齢者施設では12施設55人と減少傾向にありますが、障がい者施設において7施設81人と規模の大きな集団感染が続いています。

図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移



■ **重症者・死亡者**：1月1日から2月20日までに、重症者（人工呼吸もしくはECMO管理）が19人発生しています。幼児1人、30代1人と若年者も含まれています。一方、この間の死亡者は24人であり、70代が6人、80代が3人、90代が15人でした（図7）。死亡された場所は、病院13人、施設10人、自宅1人となっています。重症または死亡した39人のワクチン接種回数を確認すると、2回15人（38%）、未接種5人（13%）、不明19人（49%）でした。

図7 年齢階級別にみる重症者、死亡者（第6波・沖縄県）



	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上
人口	165,307	162,097	147,160	176,032	205,868	181,885	186,521	128,399	82,868	23,433
陽性率	3,470	3,846	6,666	3,634	2,930	2,330	1,569	1,213	1,257	2,253
入院率	18.1	15.4	78.8	59.1	63.6	101.7	134.6	239.1	487.5	921.8
重症・死亡率	0.6	0.0	0.7	0.6	0.0	0.0	2.1	6.2	10.9	68.3
死亡率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	3.6	64.0

陽性率、重症・死亡率、死亡率は年齢階級別人口10万人あたりで算出

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、宮古圏域を除いて県内で実施していた重点措置を2月20日に解除しました。ただし、いまだ県内では流行が続いているため注意が必要です。

先週の新規陽性者のうち、おおむね3人に1人が20歳以下でしたが、その感染経路をみると家庭内感染が多く、市中での流行が続いているなかで、小児において感染が確認されているものと考えられます。報告上、小児の感染が最多となっていますが、その背景には捕捉しきれていない成人における流行が存在する可能性があります。

一方、高齢者の新規感染については減少が続いており、2月20日時点でのコロナ病床使用率は42.8%にまで低下しています。高齢者や基礎疾患を有する者、肥満、妊婦の一部など重症化リスクの高い方々を守り、とくに高齢者施設（デイサービスを含む）における集団感染を回避することが重要です。現在も高いレベルでの流行は続いていることから、重点措置の解除後に再流行をきたすリスクがあります。沖縄県では、新規陽性者数7日間合計値が前週比で2倍を超える増加となった場合、またはコロナ病床使用率が各圏域で60%以上となった場合には、重点措置を改めて政府に要請する方針としています。

今週の新規陽性者数は、4,000-5,000人と見込みます。また、今週末までに入院患者数は290-310人に至り、うち重症患者数は2人前後と見込みます（図8）。

図8 今後1週間（2月21日-27日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
年齢群別重症化率； 厚生労働省
平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）				入院患者数※				重症患者数※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	89	180	362	730	24	26	28	33	0.0	0.0	0.0	0.0
中部	858	1,728	3,480	7,007	89	109	141	194	1.3	1.3	1.3	1.3
那覇市	394	793	1,597	3,216	54	65	82	110	0.6	0.6	0.7	0.7
南部	613	1,234	2,485	5,004	59	73	95	132	0.0	0.0	0.0	0.1
宮古	35	71	143	288	12	13	15	19	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	95	192	387	779	8	9	11	14	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	2,085	4,198	8,454	17,024	247	294	372	502	1.9	2.0	2.0	2.1

※ 2月27日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会